



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより



ためし 叱るということ



令和7年10月8日号 文責 上久木田 雄二

私は教育者ですので、「褒めて育てる」ことに異論はありません。

しかし常々、叱ることも同時に大切なことや褒め方にもコツがあることを学校だよりに書いてきました。

学校教育としては、学校教育法や生徒指導提要に則った子どもたちへの生活指導をしています。

家庭教育においても、民法やいじめ防止対策推進法に従って、しつけと暴力の違いや「いじめの第1義的責任は保護者にあること」などを踏まえた指導をしていることと思います。

とはいえ、子どもたちの生活の中には、子どもの未熟さゆえの「いたずら」や「ふざけ」、「言葉足らず」や「誤解」、「つい調子に乗って」や「相手の立場を慮れない」などは、日常のようにあります。

これらは、もちろん指導の対象ですし、学校教育の中でも家庭教育においても、適切な声かけ・経緯の聞き取りや謝罪・反省として、子どもの納得感の中で改善していくものと思っています。

私は学校の責任者として、積極的に子どもたちのトラブルには介入することになっています。子どもたちも私自身に相談を持ち込むこともあります。

私が学校を巡回していて子どもたちの課題や問題行動に気づくこともあります。

そんなときは担任や関係職員と情報を共有して、改善に向けた取組を協議し対応します。

子どもたちを叱っているともしかしく感じることもたくさんあります。

- 自分の都合のわることは言いたがらないこと（気持ちは分かりますが）
- その場限りの嘘を言うこと（未熟だから）
- 何度も言い分が変わること（嘘の兆しのことが多い）
- 自分の非より相手の非にしか着目できない（時間がかかる）

家庭教育の中でもこんな状況はありませんか。

感情的に怒ることはしてはいけないと言われます。対して、叱られる側の「聞く耳」も育てるには、必要以上の繰り返しの指導が必要だと思っています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

